

福澤諭吉の養育院?

宮本孝一
(老年学情報センター)



櫻園通信 25.
平成 27 年 6 月

東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先: 老年学情報センター

福沢諭吉



黒船来航



大久保忠寛
(= 一翁)

目付・海防掛
(外国に対する政策の立案)

洋式救貧
施設の知識

蕃書調所頭取(西洋情報の収集、洋学教育、外交折衝)

幼
院
病
院

西洋式の救貧施設「**病幼院**」
設置を幕府に建議。
実現せず。

蘭学塾「適塾」の塾頭に。

藩命により江戸に蘭学塾を
開校。英学を独学。

幕政の混乱で解任。
失脚。

使節団に随行。アメリカへ。

幕政復帰。蕃書調所頭取、
外国奉行を歴任。

使節団に随行。ヨーロッパへ。

洋式救貧
施設の知識

大政奉還論、大開国
論を唱え免職。
自宅謹慎。

「西航記」執筆。洋学者
たちの間で読まれる。

西航記：
病院 養老院 養幼
院 養啞院 養育院

自宅謹慎中、隠居を願
い出て、「大久保一翁」
と改名。

洋式救貧
施設の知識

西洋事情：
盲院 病院 貧院 啞院
癲院 痴児院

「西洋事情」刊行。

英学塾「慶應義塾」開校。

再び幕政へ。会計総裁に。大政
奉還後の幕府内の事態收拾を
命じられる。勝海舟とともに江戸
開城。

明治維新

幕府崩壊による江戸市中経済の破綻で
東京は貧民があふれる事態に。

「慶應義塾」三田に移転。

徳川家達に従って
静岡に移住。

「学問のすすめ」刊行。

東京府知事就任。
営繕会議所に救貧策の実施を働きか
けて、**営繕会議所附養育院** 設立。

ペリー来航から西洋諸国の外圧が本格化し、幕政が混乱。それから明治維新に至る約十五年間は幕末と呼ばれています。幕末期では、西洋諸国に関する情報収集が緊急の課題となり、西洋式の軍事・医療などの研究・教育が盛んになります。この時期、西洋情報の収集にたずさわっていた幕臣大久保忠寛は、洋式の救貧施設を江戸に作るプランをまとめて、幕府で建議しました。このプランは実現しませんでした。明治にはいつて東京府知事に就任した大

久保忠寛(一翁)は、営繕会議所に働きかけ、貧民があふれる東京に救貧施設「養育院」を作ります。さて、「養育院」という名称はどこからきたのでしょうか？幕末期の西洋の医療・福祉施設情報(病院・貧院・幼院など)の中で「養育院」という施設名を書き記した文書がひとつありました。洋学者福澤諭吉のヨーロッパ見聞録「西航記」です。



地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター

「西航記」は活字化されています。これを見ると、養啞院につづけて「養育院あり」と書かれています。本書の「西航記」で養育院の文字が出てくるのはここだけです。

「こ」で奇妙なことに気づきます。「育」の字の横に「盲」が付記されています。

同様に、「啞子育子」という言葉にも「盲」が付記されています。

「啞子育子」では意味が分かりませんか？、「こ」は「啞子・盲子」であると考えられま

す。そうすると、先の「養育院」も、「養啞院、養盲院」と書いたのでは？ ということになります。



は嗣子なしと雖ども、

養子をするることなし。故に〔注 以下空白。本巻
一二二ページ参照。〕

右は尋常病院の通法なり。此外、海陸軍の病院、
養老院、養幼院、養啞院、**養育院**あり。此等の入費
は全く政府より出す。但し貧者にあらずして**啞子育**
子ありて、院に入れ諸術を学しめんと欲するものは、
其学費を出すなり。

〔注 二六ページ上段の「此分他
に入る」以下ここまでは、自
筆の記録に記載されているが、写本には「〇病院の事
は別冊に詳なり」と記されてあるだけで一切省略され
ている。この部分は『西洋事情』巻之一「病院」の項

「こ」では「養育院」がいかなる施設なのか、な
にも記されていません。 では、なぜ、活字版では「養育院」としている
のでしょうか？

福澤諭吉の自筆「西航記」には、貧民対象の
医療・教育・福祉施設に関して解説する紙片が
はさまれていて、それも、活字化されて本書に
収録されています。 その謎を解くには、福澤諭吉自筆の「西航
記」を見る必要があります。

それによると、「養育院」の記述はなく、かわ
りに「養盲院」が説明されています。 福澤の自筆文献は、マイクロフィルム化され
て、慶應義塾大学の付属図書館である三田メ
ディアセンターで所蔵していることがわかりま
した。

点字での読書指導や、計算・音楽・手工芸、
就学年限などが解説されています。 そこで、閲覧申込みの手続きをして、三田メ
ディアセンターに出かけ、マイクロフィルムの自
筆「西航記」をプリントアウトしてきました。

やはり、「西航記」の「養育院」は、本当は「養
盲院」のようです。「養育院」や「啞子育子」に
「盲」を付記しているのは、この紙片の文脈から
「盲」と考えるのが妥当と「こ」でしよう。

問曰、how long have you been in this school 答
曰、ten years 其敏此の如し。

養盲院の装置も大抵養啞院に同じ。盲人に読書を
教るは、紙に凸の文字を押し、地図等は針にて紙に
穴を穿ち海陸の形を画き、指端にて之を触れしむ。

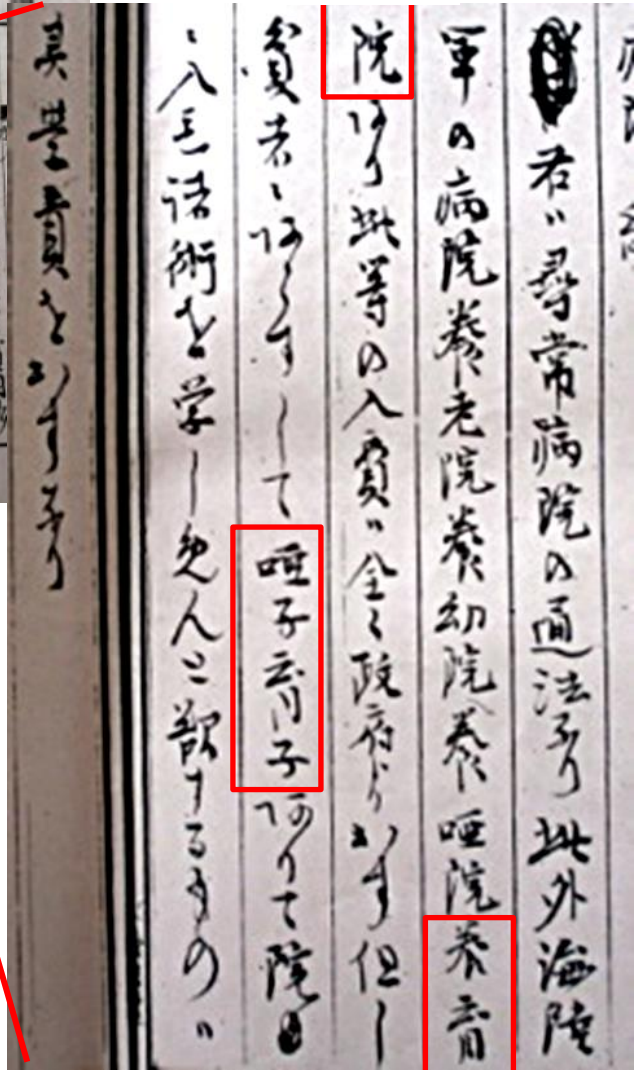
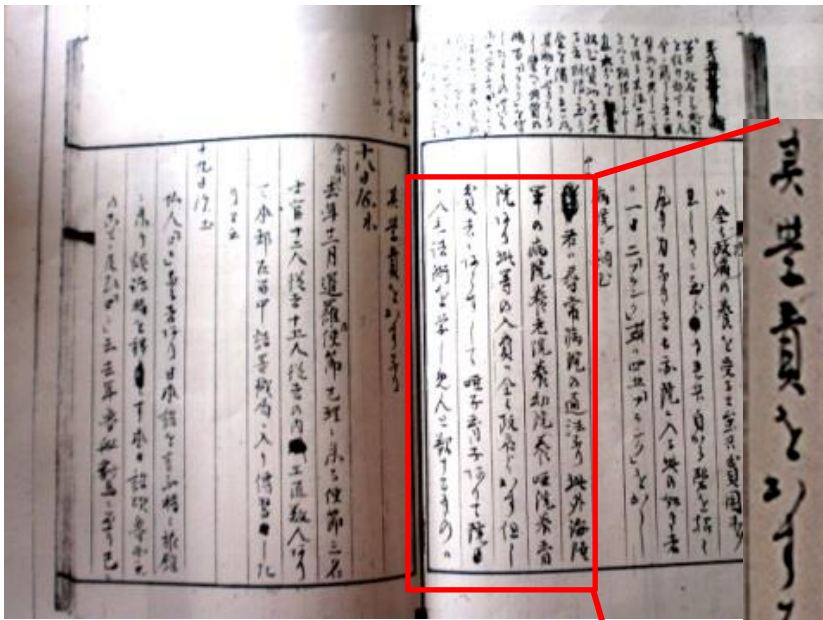
算術にも別に器械を製し、算木の如きものを転用す。
其外盲人の学ぶ事業は、音楽、織物、或は籠を製す。

織物も多くは粗にして、鋪物等に用る者なり。婦人
の手職は皆メリヤスを造る。盲人の造れるものは大
抵官に買ひ、余あれば亦市中にも売る。養盲院に入

るものは、長少を論ぜず、教授すること六年を限と
す。此間學術技芸を學得れども、貧にして活計なき
者は、尚院内に留り、養はるゝことを許す。但し

限外、院に留る者は、手業を勤ざるを得ず。〇
院も他院に同く、富る者は学費を払へども、

院も他院に同く、富る者は学費を払へども、

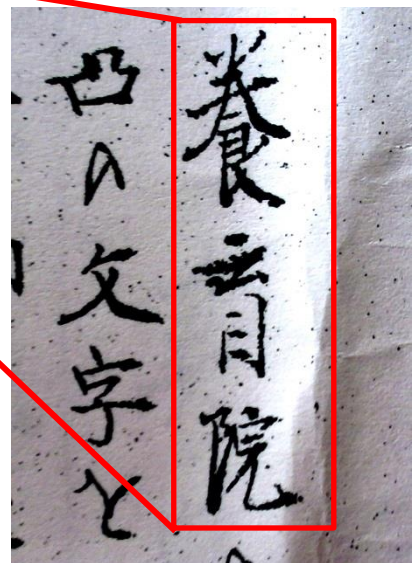
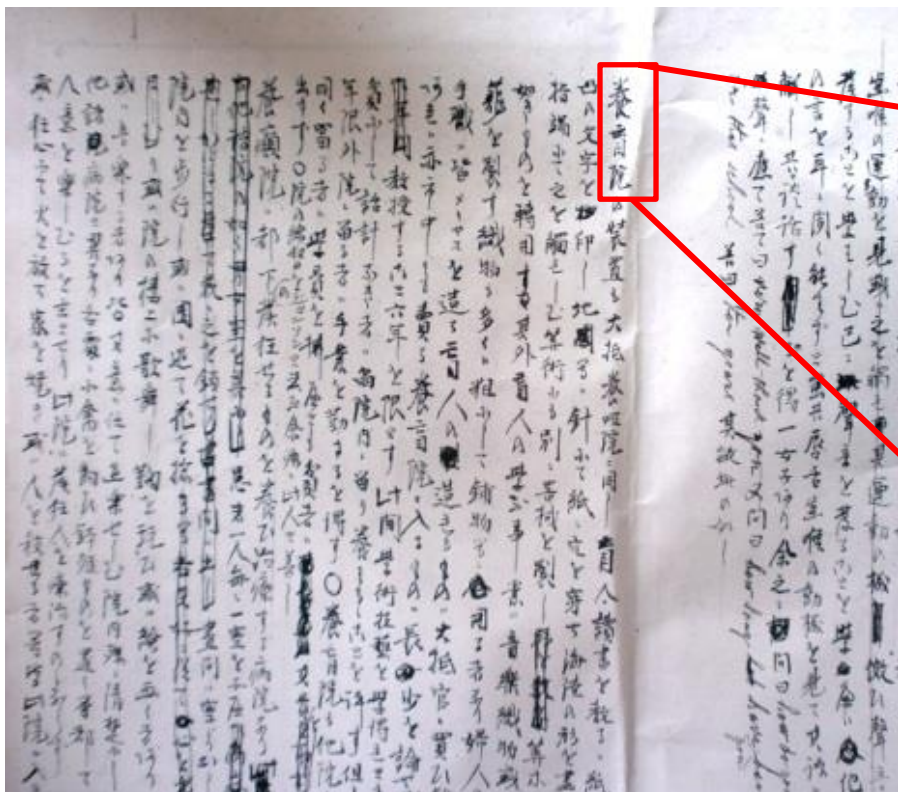


たしかに福澤諭吉は、「養育院」「啞子育子」と書いています。「盲」とは読めません。

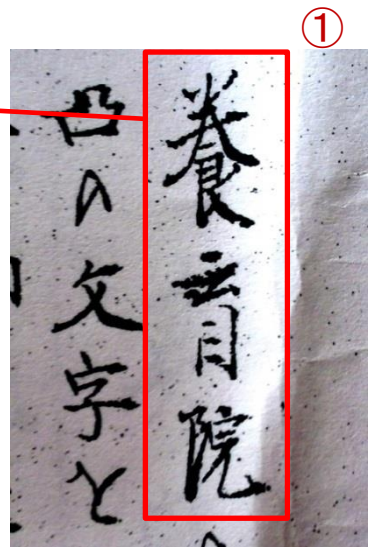
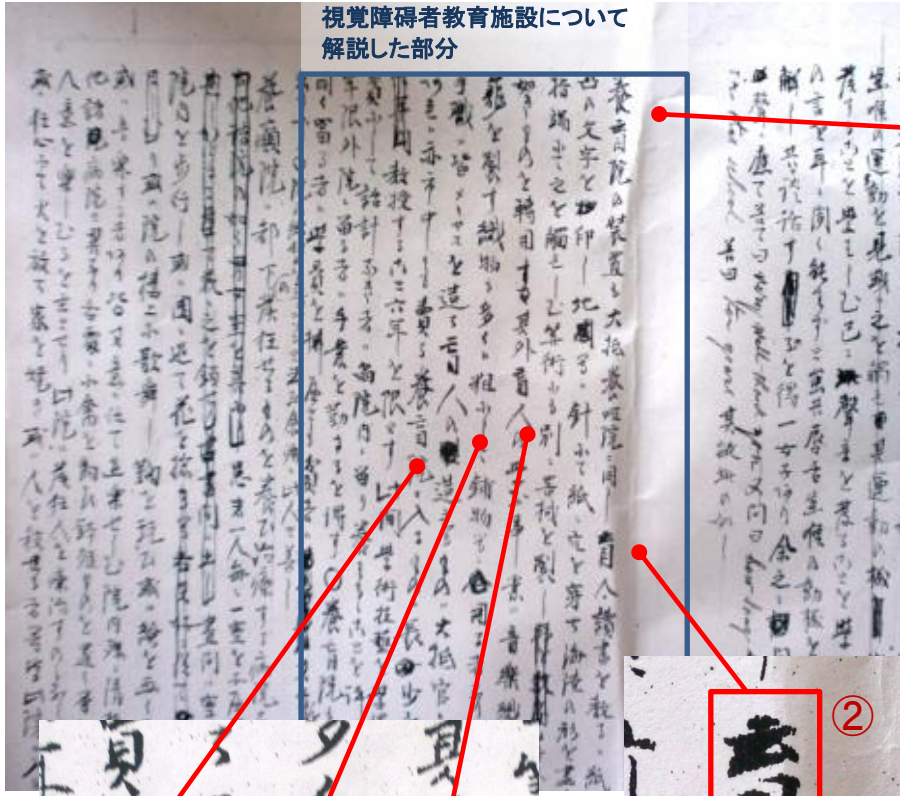
では、「西航記」に挟まれていた紙片はどのようなしょう。

なんと「これも」養育院」です。活字版は「養育院」なのですが。

さらに読み進めていくと...

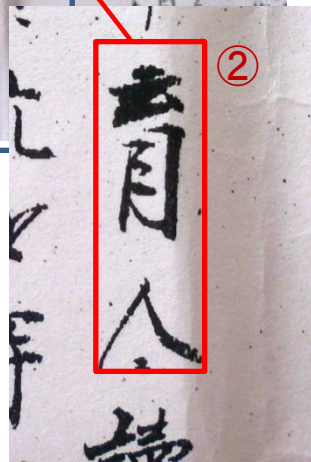


視覚障害者教育施設について
解説した部分



活字版の「養育院」記述と同じ範囲で、①②の「育」の字が、③以降は「盲」に変わっていき、①の「育」も、よく見ると字形が不自然です。三・四画目の「ム」の左側に墨を書き足したように見えます。まるで「育」を「盲」の字形に近づけるかのように。

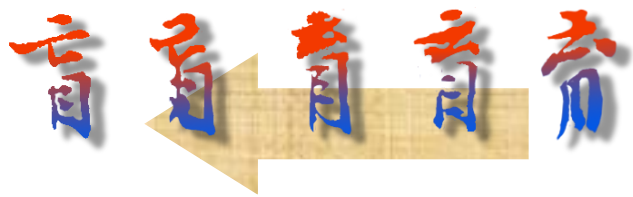
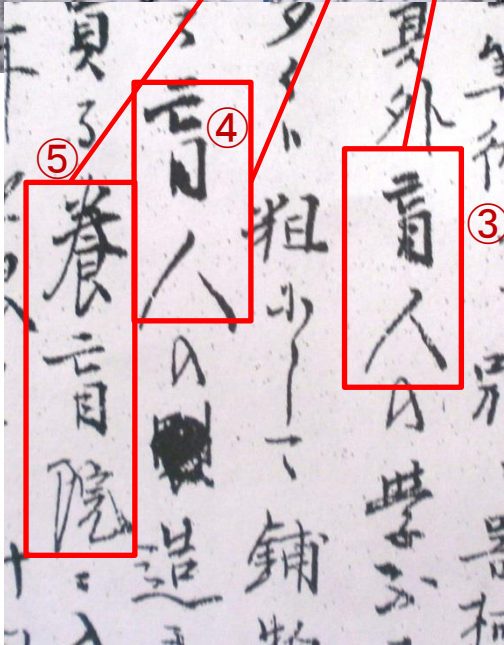
推測の域を出ませんが、福澤諭吉は、「盲」の字を誤って「育」と書いていたのではないでしょうか。



この紙片を書き進めるときに、なにかのきっかけで、正しくは「盲」だと分かり、③以降から明瞭な楷書で「盲」と書き始めた。墨字は消せませんから、先に書いた「育」には少し墨を書き足して「盲」の字形に近づけた。最初に書いた本文の「育」は……これは墨を書き足す程度で修正するのは難しいように思います。

ヨーロッパの施設名を和名表記する際に福澤が他の日本語文献を参照して、盲・育を見間違え、書きながら「育ではなく盲だ」と気づいたのかもしれませんが、

しかし「育子」「育人」と書いているところや、「盲」の下が目ではなく月であるところを見ると、単純に福澤の誤字であった可能性が高いと思われれます。



福澤諭吉
自筆表記の変化

大久保一翁(忠寛)は福澤諭吉と親交が深かったといわれています。森有礼が明治八年に商法講習所(現 一橋大学)開設で苦労した時には、渋沢栄一とともに、大久保一翁や福澤諭吉が援助をしていますし、明治十年に慶應義塾が財政難になった際には、福澤諭吉は大久保一翁や勝海舟に相談し徳川家に資金援助を申し入れています。

養育院設立のキーパーソン大久保一翁が福澤諭吉の「西航記」を読んでいたかどうかはわかりません。また、養育院命名の経緯についての記録も残っていません。

しかし、明治の救貧施設の命名に、福澤諭吉記述の「養育院」が参考にされたかもしれず、それが諭吉の誤字だったとしたら、激動の幕末期に源流をもつ養育院史の、ユニークな歴史ごぼれ話ということになりそうです。